

平成31年2月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

高橋 勝幸 議員

◇Uターン促進の取組強化について

○ふるさと教育について

・ふるさと教育の取組内容について伺いたい。

(教育長答弁)

児童生徒がふるさとに対し愛着や誇りを持つことは、学校教育の目標の一つであり、そのような心情を育てるために、小中学校では、地域の人々との交流等を通して、ふるさとの自然や歴史、文化や産業のすばらしさや、そこに住む人の苦労や努力の尊さを学んでいます。

このようなふるさと教育を支援するために、県教育委員会といたしましても、郷土学習資料「ふるさと長崎県」を毎年すべての中学1年生に配布しています。次年度は、ふるさとへの思いを綴るページや、親子で学ぶことができるコーナーを設けるなど、郷土への思いを一層深めることができるよう工夫しております。

加えて、「本県に住み続けたい」「本県に戻って生活したい」という思いを強くするためには、ふるさとを担おうとする実践力を育成することも重要であると考え、児童生徒が自ら地域づくりの主体となる取組も進めているところです。

県立高校においても、今年度から3ヵ年の計画で、毎年6校を研究指定校とし、地域の魅力発信や課題解決策の提案などを通して、ふるさとに貢献する人材の育成に努めております。こうした教育活動を通じて、高校生が様々な地域の課題に向きあい、地方創生への当事者意識と使命感を培うことで、地元定着やUターンの増加につなげてまいりたいと考えております。